



北海道方面

旭川市民の渴望する旭橋

百四十萬圓にて着工す

旭川市振興の根本策として旭橋速成に關し市側に於ては師團側と協議會を開き其の實現を期することゝなつた。竣工豫定は八年度であるが、それでは餘り悠長に過ぎ市民の不便も甚だしるので六年度内即ち昭和七年三月末迄に上部構渡架を完了せしむることに道廳側も同意し、下部の基礎工事は大體既に完成した模様でもあり、また鐵材等も今が底値と言はれ勞銀等も低下して居

るから割合に速く安く完成する見込みで神居古澤五里の道路も失業救済の割當てて六年度中に面目を一新するであらう。

道路舗装工事愈決す

旭川市一條通十一丁目及び一條釣橋通りより七丁目に至る間は沿道受益者側より負擔金を取纏め寄附すべきを以て速かに着手を望む旨市役所土木課に申出ありたるため市は道廳と打合せの結果歩車道を區別し氣候との關係等を考査の上六年度中に舗装することになつた。

札幌小樽間國道改修協議會

札幌國道改修協議會は道廳側より西山土

木部長、伊藤技師、福吉道路課長、大鳥技師、杉森札幌事務所長、札幌市役所側より嵐崎助役、津田土木課長、久保札幌商工會頭、小樽市役所側より木田川市長、三原土木課長、河原小樽商工會頭等出席首題に關し協議の結果、六年度に於て取敢へず小樽驛前を起點とし平磯岬を経て海岸に沿ひ紅里川に至る延長四千八百米突を改築することに決定した。

東北方面

神取渡船場架橋に着手す

宮城縣桃生郡中津山村北上川神取渡船場架橋問題は久しきに亙る懸案であつて、殊に石巻鐵道開通以來登米、本吉兩郡地方との樞要路となり一日平均千餘の渡船客を見、降雪凍氷等に際しては渡船の操作上障害尠からず、架橋の實現に同地方民は焦慮しつゝ、ありしが今回愈々架橋することゝなり附近一帶は架橋萬歳を絶叫して居る。

北陸方面

新潟の失業救済道路工事

國道十號路線二里半の改築に就て關係地元たる北蒲原郡濁川村、木崎村、佐々木村、聖籠村の各村長は縣廳土木課及び内務省新潟土木出張所の係員と協議の結果、本線改築の設計は縣作製の原案に據ること、用地買収等に關しては良く斡旋して圓滿を期すること其他を申合せ測量には既に縣より藤井吉井兩技手以下數名より成る二班の測量隊出發し紀元節以前に實測を了する豫定であつて、愈々工事着手の上は失業救済人員毎日六七百人以上千人にも及ぶべければパツク建の收容所等に就ても追て凝議することゝした。

縣道二十餘線の改良計畫

新潟縣に於ける失業救済を目的の縣道改修に就ては失業者の最も多き地方及び交通の關係等を考查し、各郡に互り約二十線を有し其費用は最高三萬圓前後より一萬圓内

地方通信

外に至るものであつて内三分一は國庫補助他は縣費の支辨に俟つ事而して從來縣道開鑿に際して地元の負擔は三割位なりしが今回は一割五分見當とのことで關係町村は何れも大歡迎である。

昭和六年度橋梁修繕費

新潟縣下に於ける昭和六年度指定橋梁修繕費豫算を各出張所に左の如く決定し施行することゝなつた。新潟土木派遣所六橋六千二百圓、新津派遣所三橋二千圓、新發田派遣所四橋三千八百四十圓、村上派遣所四橋四千五百圓、三條派遣所五橋一千五百五十圓、長岡派遣所四橋四千七百圓、小千谷派遣所四橋六千七百圓、六日町派遣所一橋一千二百圓、柏崎派遣所四橋二千四百圓、安塚派遣所一橋一千三百圓、高田派遣所九橋六千三百圓、糸魚川派遣所一橋六百圓、相川派遣所二橋九百四十圓等である。

關 東 方 面

東京深川の萬年橋竣功

本號の口繪に掲載した東京市萬年橋は帝都復興事業として昭和四年六月十七日起工し、同五年十一月三月竣功した。其工事の概略を摘記すれば、本橋は東京市深川區西元町より、同區清住町に到る、小名木川入口に架設せられ、一徑間繫栞鋼橋にして、橋長三十一間一分三厘、幅員八間二分五厘、(十五米)面積貳百五拾六坪九合、此の總工費三十二萬四千圓にして之に要したる「セメント」五千二百樽餘、鐵材四百六拾四噸六三七、從業勞働者延人員約一萬四千人である、本橋は小名木川入口の舟航頻繁なる位置に在るので、一徑間とする必要上、橋臺には、比較的大荷重を受くる事とした、軟弱の地盤に對し方十七尺の鐵筋混凝土製井筒を沈下して基礎とし、此の井筒を基準面零點以下約九十尺迄沈下せしめて、漸く止りたる如き實狀で、其の沈下作業には意外の日子を費したけれども、幸ひ工事中に事故發生せずに無事竣功した。本橋工事請負人は株式會社鹿島組で、鐵部製作請負は川崎造船所である。(有元岩鶴報)

東海方面

木曾川橋梁の基礎工事進む

木曾揖斐長良の渡船が昭和日本の一號國道を久しく沮んで海外來遊者の曠例とされて居つたが、今や物凄い機械の騒音と大規模な潜函作業が正子重三技師の指導で進められて居る。橋脚の基礎工事は成るべく出水期を避ける必要上四月頃の雪解け前までに固め上げたい關係から此の寒天に晝夜兼行で雪も嵐も容赦なく進められ河底百尺の深さに混泥土の大柱が一本五千噸以上に昇る巨岩の如きを急流の中に定立する爲めに空氣壓排機と電動機と混泥土ミキサーとの異常な響きが木曾の流れを壓して居る。

中國方面

廣島の失業救済道路工事

百萬圓豫算の下に著手せんとする道路改良及び市内の鋪裝工事は土木課で成案した

ので市長は次の市會に提案することとなつた由である。補助道路は第一期第二期各十路線、第三期十五路線であつて鋪裝工事は第一期共十五線第三期十七路線であるといふ。

宇部萩間道路改築起工式

宇部市萩町間第二期道路工事は縣補助八千圓に加ふるに渡邊祐策氏より三萬圓寄附等ありて極めて順調に進み長府土木出張所小林町長船木警察署長縣會議員其他多數參會の下に盛大な起工式が舉げられ沿線四里の住民は國旗を掲げて之を祝つた。

路傍樹に櫻千本の寄附植付

防府町宮市では教育勸語喚發四十年記念として宮市天滿宮より東方町設ケラウンドに達する十町餘の路側に大小各種の櫻樹二千本を植付中であるが社殿周圍の梅樹と曉天樓附近の紅葉と共に三方の美觀を稱せらるに至るであらう。

山口縣の國縣道改修準備

失業救済事業として六年度から施行する

管の十七號國道小郡大蔵間改修事業は、國費補助二十萬圓地方負擔十萬圓で實施する譯であるが其の施行區間は小郡農學校附近より大蔵村朝田に至る三七〇〇米突で、路面も鋪裝する筈である。夫れで關谷土木課長は實施設計や其他の諸準備に係員を督勵して其の完備を急いで居るが右十七號國道の外に尙ほ縣道改修にも之れ以上の大改修準備を着々進めて居る。

四國方面

湯山松山線及楠河松山線

道路改築落成式

府縣道湯山松山線及楠河松山線中温泉郡湯山村地内道路改築落成式は一月十五日午後一時から湯山村第二小學校に於て盛大に舉行せられた。縣からは笹井知事を始め永戸技師松岡屬等臨席し其の他縣會議員關係者村内有志多數出席し神式によつて型の如く式典を終り同村長日野政太郎氏今日に至るまでの道路の大略を述べ永戸技師工事報告を朗讀し次で知事來賓の祝辭があつて午

後三時式を終り、夫より参列者一同は湧々淵の絶景を賞て、祝宴に移り附近の名勝地を視察し午後五時一同歡を場して散會したが湯山村としては空前の盛大な挙式であり村民皆喜悅にひたつてゐる。

湯山松山線は郡制時代に於て幾分改築濟なりしも大部分は未改築であつたので大正十三年一月以來九回に亘つて改築工事を施行し昭和三年二月に全線竣功した、所要工費七萬四千九百七十三圓延長二千八百間、楠河松山線は湯山線終點に連結し昭和三年二月より五回に亘り工事を施行し昭和五年十二月竣功した、所要工費五萬七百餘圓延長千五百八十六間であるこれによつて温泉郡湯山村大字河中より松山市に至る五里餘の間は車馬の交通自在となり多大の利便を得ることとなつた。

九州方面

久留米の道路鋪裝費決る

福岡縣の失業救濟事業としての久留米市道鋪裝に關しては石野市長野瀬市土木課長

地方通信

中川會頭及び沿道各區長出席種々協議の結果第一段として直ちに鋪裝すること第二段として電車道及市營バスに關係ある道路の擴張と鋪裝を實施すること、し鋪裝費十萬圓中の二割五分は地元寄附と決定したが面坪十圓二箇年保證の標準であるといふ。

八幡市の道路擴張と鋪裝

黒崎驛前の區劃整理と幹線道路及昭和通擴張並に國道鋪裝に關し守田市土木課長は着々準備を進め近く坂本縣土木課長に審査を請ふことになつて居るが、鋪裝工事は黒崎驛前より中橋川に至る百五十間の八間幅道路を十四間幅に、同驛より西部に至る二百五十間の六間幅を十四間に擴張して人道と車道とを區別し、擴張工事は區劃整理組合で、又鋪裝は縣當局が失業救濟事業として遂行の豫定で荒生田公園下より到津橋に至る百五十間の八間道路も引續き十四間に擴張する豫定である。

美々都川架橋促進の協議

宮崎縣東臼杵郡と兒湯郡界美々都川の國道上に橋梁なく纔かに渡船を以て辛うじて

運輸を計つて居るに過ぎず、現代文明交通の體面上より見るも産業の振興上より見るも放置すべからざる緊急問題として昨冬の通常縣會上に議され起債認可を俟ちて直ちに着手するやう參事會の委任事項として決議されたので地元たる美々津町、岩脇村の吏員町村會議員は架橋促進運動を起すことになつた。

朝鮮方面

清津會寧慶興線改修成る

清津と會寧間には殆んど鐵道線と並行する一等道路が開通し、會寧より北上して、行營北蒼坪を経て穩城に至る幹線及び雄基より下汝坪を経て慶興に至る十一里間の一等道路も既に完成し、下汝坪より二等道路分岐して北上し新阿山に至る六里も路面其他改良せられ先程よりの降雪にも何等事故を見ず、穩城から北蒼坪を経て慶源に至る二等道路も漸次改良され自動車定期運転をやつて居る。